

令和6年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1492000136	事業の開始年月日	平成23年11月1日
		指定年月日	令和5年11月1日
法人名	株式会社スタッフサプライ		
事業所名	グループホームしんすみれ荘		
所在地	(〒254-0033) 神奈川県平塚市老松町2-21ハynesプラザ杉山1階C号室		
サービス種別 定員等	☐ 小規模多機能型居宅介護 ☒ 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名
		通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和7年2月8日	評価結果 市町村受理日	令和7年7月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

現在は要介護1～要介護5の方が利用されています。画一的なケアではなく性格や心身の状態に応じて柔軟に対応しています。ご希望に応じてお看取りもさせていただきます。
eラーニングでの研修を始め「認知症」「身体拘束」「虐待」に対する知識、対応技術の向上を目指しています。
かかりつけ医との連絡を密にとり適切な医療が受けられるように心がけています。受診や入院の支援は管理者が責任を持って行っています。
定期的に会議を行い、運営にも職員の意見を聴くようにしています。
利用者様が安心して暮らし、ご家族などの訪問者がいつでも気軽に来れる明るい雰囲気の施設を目指しています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町2-3 日土地山下町ビル9F		
訪問調査日	令和7年4月11日	評価機関 評価決定日	令和7年6月10日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
事業所はJ R東海道線「平塚」駅南口よりバスに乗り約5分、バス停「すみれ平局前」で下車、徒歩3分の所にあります。周りは閑静な住宅街で、近隣には公園やスーパーマーケットがある。事業所の1階には同一法人が運営している小規模多機能型居宅介護事業所が併設されている。
【理念に沿った身体拘束廃止の方針】
家族から「この事業所に預けて良かった」と思って貰えるよう利用者のケアにあたっている。eラーニング研修では、身体拘束排除のための取り組みについても学んでいる。管理者は、理念である「幸せな時・安心」を実現するため、利用者の希望や欲求を優先させるとともに、利用者各々の見守りを強化して、身体拘束をしなくても安全を保てるようなケアの実践に向けて、職員の指導にあたっている。
【職員研修システムの導入】
職員教育に注力し、eラーニング形式の内部研修を導入した。以前は、管理者が職員に勉強して欲しい項目について、レジュメを作成し、配布していた。eラーニングでは、自宅もしくは、就業中に、パソコンを使用して気軽に受講できる。グループホームで必要な9項目と、管理者が職員各々に必要な内容の研修を組み合わせ、研修計画を立てている。職員は研修を通して、認知症ケアの様々なケースや認知症に関する知識を深め、利用者理解につなげている。受講後に、テストに回答するとその結果が管理者に届き、各々の進捗状況が把握できる。管理者は、テスト結果より受講姿勢や意欲が大切と考えている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ～ 14	1 ～ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ～ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ～ 35	9 ～ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ～ 55	14 ～ 20
V アウトカム項目	56 ～ 68	

事業所名	グループホームしんすみれ荘
ユニット名	1 階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ全ての家族と
		○	2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

事業所名	グループホームしんすみれ荘
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1, 毎日ある
		○	2, 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3. たまに
		○	4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
		○	2, 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1, ほぼ全ての利用者が
		○	2, 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I 理念に基づく運営						
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念をもとに、利用者様一人ひとりに寄り添い、質の高いケアを提供できるよう日々の業務に取り組んでいます。	13年前の開設時に職員で話し合っ て決めた理念を現在まで引き継いでいる。各ユニットのキッチン横の目につく場所に掲示している。管理者は、理念の「幸せな時・安心」の実現のため、利用者の希望に沿ったケアの提供と同時に安全な生活への配慮も怠らないよう指導している。職員は理念を行動指針として、利用者の支援を行なっている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の 一員として日常的に交流している	自治会に加入しています。盆踊りや防災訓練に積極的に参加していきたいと考えています。	堇平自治会に加入して、回覧板のやり取りがある。自治会の副会長である二軒隣の住民は、運営推進会議にも参加しており、日頃から意見をもらっている。毎年夏に近隣の公園で地域の盆踊り大会が行われるが、現在、利用者から見学の希望がないため参加していない。地域の防災訓練が毎年行われているが、今は参加出来ない。近隣の高齢者がボランティアで事業所の仕事を手伝うとポイントが取得できる「平塚元気応援ポイント事業」制度に参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学や認知症に関する相談を受けています。			
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開催しています。報告や話し合いを行っており、参考意見等の実践に努めています。外部評価の説明や結果等を報告しています。	運営推進会議は、併設の小規模多機能型居宅介護事業所との合同で2ヶ月に1回、偶数月に開催している。民生委員、地域包括支援センター職員、自治会副会長、近隣の特別養護老人ホームの施設長、家族、社長、管理者が出席している。管理者は加算の体制について相談し、参加者の意見を頂いている。医療連携を構築して看取り加算を、訪問看護ステーションとの24時間の医療連携体制を確立して、医療連携体制加算を取得に向けて準備をしていく方針である。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に地域支援センターから参加してもらっています。 市の担当者とは連絡を取り合い協力関係を築くよう努力しています。	平塚市の介護保険課とは、介護保険要介護認定調査の結果や事業所の実情を報告している。市の高齢福祉課の担当者や地域包括支援センターとは、措置入所に関して訪問や電話で連絡を取り合っている。現在、生活保護費を受給している利用者が8名いるため、生活福祉課と連携を取っている。面談の為、生活福祉課職員が定期的に来所している。「平塚市システム会議」のグループホーム連絡会と小規模多機能連絡会に加入し、管理者が出席して情報の共有、交流に努めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行いません。 指針、マニュアル等整備。 研修を行っています。 身体拘束の内容についての理解が足りていないので、教育を強化していきたいと思っています。	年に2回、管理者と各ユニットから職員が1名ずつ参加して、身体拘束廃止委員会を開催し、議事録を作成している。eラーニング研修では、身体拘束排除のための取り組みについても勉強している。管理者は、利用者の希望や欲求を優先させるとともに、利用者各々の見守りを強化して、身体拘束をしなくても安全を保てるようなケアの実践に向けて、職員の指導にあたっている。前頭側頭認知症で常道行動の強い利用者にも、本人の欲求や行動を制限することなく、社長や管理者が付き添って外出している。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	指針、資料等整備。 研修を行っています。 虐待の内容についての理解が足りていないので教育の強化、虐待に発展しそうな行為を見逃さないよう、努力していきます。	年に1回、虐待防止委員会を身体拘束廃止委員会と同日に開催し、議事録を作成している。eラーニング研修では、高齢者虐待防止関連法を含む虐待防止について学んでいる。自立支援について思い違いをしている職員がいる。環境が整えられていない状況で自立行動を求める傾向があり、管理者はスピーチロックも含めて虐待のグレーゾーンにならないよう指導している。虐待の防止には、優しさと認知症に対する知識を大切だと考えている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な方に活用できるよう、研修等で学んでいます。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様やそのご家族がサービス内容に十分納得できるよう、契約内容やその詳細をわかりやすく説明しています。契約時には、時間をかけてご不明点を丁寧に解説し、信頼関係の構築に努めています。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やそのご家族が意見や要望を伝えやすいように声掛けしています。	面会に制限は設けていない。家族が来所した際は、一緒に食事をしてもらい、居室に案内している。面会時に、来られない家族には、メール、電話、SNS等で、利用者の日頃の生活状況を伝え、要望などを聞いている。請求書の郵送時に、利用者の状況を記した「お便り」を同封することもある。利用者の要望の尊重に努め、信頼関係を築き、安心してサービスを利用できる環境を整えている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的にリーダー会議を行い、意見や提案を聞く機会を設けています。	2か月に1回、社長、管理者、各フロアリーダーをメンバーとして行なう「リーダー会議」で、フロアの状況や提案を聞いている。また各階毎に行なう「ユニット会議」には基本全職員が参加し、意見や提案を出し合い、検討している。「担当者会議」では計画作成担当者が主体となり、その日の出勤職員の意見を聞いてケアプランを作成している。定期的な個別面接などは行っていないが、管理者は必要に応じて、面談を行ない、職員は業務上の意見や相談を日頃からメールで管理者に伝えている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	社長と管理者は職員の日々の努力を見えています。負担軽減を考え、働きやすい環境づくりを目指しています。	通常の勤務シフトには、職員の希望を反映している。職員個別に目標を設定し、結果を人事考課に反映させている。個別に話を聴くなどして悩みを解決し、やりがいや向上心をもてる職場環境の整備に努めている。職員の健康診断は年1回実施しているが、ストレスチェックは行っていない。各階の事務室にロッカーを設置し、休憩室としても使用している。有給休暇は年間で5日以上取得出来ている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会を設けています。 利用者のニーズをより正確に理解し、高品質なケアを提供する能力を強化していきたいと思います。	社長と管理者は職員に日常的に接しており、認知症ケアに関するいろいろなケースに対応出来るように、各自の勉強を奨励している。管理者は個々のケースに合わせて独自のツールを作成し、利用者への対応やケア方法を指導しているが、新たにeラーニング研修を導入し、職員は個別に受講している。オンライン研修で特定行為等（喀痰吸引）の内容を学んでいる。介護実践者研修を横浜で受講している。新入職員教育は、早番・日勤・夜勤帯のそれぞれに先輩職員と一緒にケアに従事し、マニュアルに沿って指導している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	平塚市システム会議グループホーム連絡会に加入しています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安を軽減するために時間をかけて丁寧にコミュニケーションを取っています。利用者様の要望を尊重し、信頼関係を築くことで、安心してサービスを利用していただける環境を整えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用者様のご家族との信頼関係を大切にしています。 一緒にケア方針について話し合い、安心していただくよう努力しています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人の状態やご家族の様子を伺いながら、必要なサービスを提案しています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様同士のコミュニケーションを促進し、互いに支えあう関係を築けるように努めています。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	いつでも来荘していただき、一緒に食事や居室での一時を過ごしていただきながら、日頃の生活状況も伝えている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご友人知人の面会や外出をサポートしています。	家族と一緒に外出し、馴染みの回転ずし店などで食事をする方もいる。電話や手紙の取次ぎ支援を行っており、以前、遠方に居住している家族とのテレビ通話の支援も行なった。家族対応で、馴染みの床屋に通う利用者がいる。生活保護費を受給している方には職員が髭剃りや整容を実施している。従前からの趣味の「ナンプレ」を行っている方がいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う仲間の関係を大切にする支援をしています		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡退所した家族との連絡も取り合っています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	一人ひとりの思いや希望に感心を持ち、ケアプランとして検討している。 入所時に家族・本人から、できるだけ詳しく聞いている	入浴や排泄等、1対1になる際に、声掛けや傾聴により利用者の思いや気持ちを把握している。職員は日々の会話などで聞き取った利用者の意向や情報を、タブレットに記録し個別ファイルで共有している。担当者会議ではタブレットの記録を検討し、利用者各々の思いや意向などに寄り添ったケアプランを作成している。自分の意志を伝えることが困難な方には、日頃の行動や仕草などから推測し、利用者目線でのケアを提供するように職員に指導している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に家族・本人から、できるだけ詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活状況・心身の状態を把握し、記録として残している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族の希望に添うようにするため、職員間で話し合いを持ち、ケアプランを作成しています。	入居時のアセスメントでは、本人の状態や家族の様子を「課題分析」を使って把握し、初期のケアプランを1～3ヶ月で提案している。その後、「評価票」でモニタリングを3ヶ月に1度行なっている。利用者個々に短期計画を半年、長期計画を1年、人によっては介護保険の要介護認定期間に設定し、必要の都度見直しながら利用者の現状に即したケアプランを立てている。介護記録はタブレットの「ケア記録」アプリを使用し、職員は日勤夜勤に関わらず利用者の状態に異変を感じた時は、管理者にアプリのデータを転送して相談ができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	iPad（介護記録アプリ）を使用し記録しています。データとして1か月間の表や推移がわかるグラフが見れるので情報共有、計画見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診や必要な手続きの付添いを行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事への参加を促進し、利用者が積極的に社会参加できるようサポートしていこうと思います		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の健康管理において、かかりつけ医との連携を強化し、定期的な受診をサポートしています。必要に応じてご家族と医師との連携も行い、最適な医療サービスを提供するための調整を行っています。	月に2回、協力医療機関（くすのき在宅診療所）の訪問診療を利用者9名が受診している。往診時に看護師が帯同している。月1回、従前からのかかりつけ医の訪問診療を受診する方がいる（高橋内科小児科2名、ミサヲクリニック1名）。なでしこクリニックに利用者4名が通院している。協力薬局（あいりす薬局）の薬剤師が薬を持参し、来所している。薬剤師が個別に配薬し、職員がダブルチェックで与薬している。月に1回、訪問歯科医が来所し、個別契約をしている利用者の診療を行なっている（歯科衛生士及び事務員が帯同）。今後、訪問歯科医ならびに訪問看護ステーションとは、それぞれ協力医療機関としての契約を行なう予定でいる。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師とは密に連絡を取り合い、医療面でのサポートが必要な場合には、迅速に対応してくれています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院は必ず付添います。速やかに必要な情報を提供しています。できるだけ早期に退院ができるよう情報交換や相談をしています。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が終末期を迎える際、医師のインフォームドコンセントに同席しています。希望にあったケアを提供できるよう努めています。	重度化や終末期に際して、本人と家族が希望する場合は看取りも行なっている。現在は加算を取っていないので、重度化した場合の対応について同意書も交わしていないが、今後は同意書の取り交わしと看取りケアプランの実施も行なう予定である。看取り期には、医師、管理者および家族が連携して、食事やレクリエーションなど出来る範囲でケアし、穏やかな最期を迎えられるように支援している。今年度は1月に1名の看取りを行なった。管理者は家族から届いた感謝の言葉を職員に伝えると共に振り返りを行なっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受ける機会を設けています。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害訓練は年2回行っている。外へ避難する場合地域の方の協力の方法等を運営推進会議で話し合っている。	避難訓練や通報訓練、消火器の使い方、設備点検、避難路の確保などを、消防署と連携して行なっているが、夜間を想定した訓練は実施していない。事業所の災害訓練に地域住民の参加がなく、連携が行われていない。また地域の防災訓練への参加ができていない。今後、備蓄品の内容を見直す予定になっているが、現在、管理台帳が整備されていないため数量や消費期限等の在庫管理は出来ていない。廊下に利用者個々の「非常持ち出し袋」を設置し、災害時にはすぐに携帯できるように準備している。	事業所の災害訓練は年2回実施されていますが、夜間想定訓練が実施されていません。夜間想定訓練を実施することを期待します。事業所の災害訓練に近隣住民の協力も得られていません。また地域の防災訓練への参加もしていないため、双方参加の実現に向けて、働きかけを行なうことを期待します。防災用備品の管理台帳が整備されておりません。数量や消費期限を把握するため、管理台帳を作成することを期待します。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方、対応には十分配慮していくよう、注意を促しています。研修受講の機会を設けています。	利用者の呼称は、基本名字に“さん”付けとしている。eラーニング研修では、プライバシー保護に関する内容を学んでいる。一人ひとりの人格を尊重し、性格、体調、習慣などを考慮しながら、利用者が穏やかな共同生活を送れるように支援している。個人情報保護にも留意し、個人情報を含む書類や記録などは鍵のかかる事務所のキャビネットに保管し、タブレット入力の際も利用者に見えないよう周囲に配慮している。タブレット2台とパソコン4台にはパスワードを設定し、個人情報の流出を保護をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声掛け、傾聴により本人の思いや気持ちを知る機会を作っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	注意をしてもある一定数の職員は業務を優先する傾向があります。職員全員がゆとりをもってケアができるよう改善していきます。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髭剃りや整容を支援しています。希望があれば床屋さんや美容院にお連れしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	現在の利用者様の状況では一緒に食事の準備をすることは無理ですが、テーブルを拭いていただいています。	業者が作成した献立に従って、レシピ付き食材が前日に届き、職員が朝・昼・夕の食事を調理している。利用者の体調に合わせキザミ食やトロミ食などの食形態でも調理し、むせにくく食べやすいように工夫している。業者からのメニューには季節毎の献立は組まれているが、別に行事等での外食や出前など特別な食事は提供していない。誕生日会やクリスマスなどのイベントでは、近所のスーパーマーケットでケーキを購入し提供している。お菓子作りの得意な職員が、時々おしるこを手作りし、皆で食べて楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べやすい、むせにくいなどその人に合った形態や工夫をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っています。利用者様ごとにできないところを手伝う支援の仕方をしています。訪問歯科によるケアを受けています。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	状況に応じてトイレ誘導、介助をしています。	約半数の利用者がおむつを使用している。タブレットの排泄チェック表の活用などによってパターンを把握し、トイレに誘導して排泄する習慣を身につけてもらうよう支援している。トイレ誘導の際には、周りに配慮しながら、はっきりと目的を伝えて誘導している。夜間は睡眠を優先しているが、定時巡回でパッド交換する方やトイレに誘導する方、自分でトイレに行く方等、各々に応じた支援をしている。入院中におむつを使用していた利用者が、退院後に支援を続けた結果、リハビリパンツ使用に改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	かかりつけ医と連携し、便秘を予防しています。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	原則、入浴日は決めています。ゆったりした気分に入浴できるようにしています。	各階の浴室には個浴のユニットバスがあり、浴槽の両側から介助できる構造になっている。脱衣室にはエアコンを設置して、浴室との温度差を無くし、ヒートショック対策をしている。1対1の介助を原則としているが、立位困難な利用者（約半数）には2人で介助したりシャワー浴で対応している。入浴を好まない利用者にも、衛生上の観点から入浴ができるよう、声掛け等に工夫して、個々に応じた支援をしている。季節のゆず湯を行なったり、入浴剤を使用し、入浴を楽しめるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のペースに合わせて自分の部屋で休息していただいています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報をすぐに閲覧できるようにしています。薬が変わった時は指定された期間申し送りを繰り返し、全員が状態の変化の確認をしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に洗濯物たたみをお願いしています。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常同行動が「外に出る」の方がいます。外出時には社長や職員が同行しています。ご家族や友人との外食に付き添っています。	現在、利用者に散歩や買い物希望する方がいないため、家族との外出以外は近隣の散歩等を行っていない。以前は、七夕まつりや駅伝見物など、皆で出かける機会を大切にしていたが、コロナ禍以降は自粛している。車いすを使用する利用者も含めて、日光浴や外気浴を希望する方もいない。今年度の行事予定は全て事業所内で実施し、利用者も楽しんでいたが、外出には繋がっていない。家族と一緒にドライブを兼ねて外出し、出先で食事をするケースはある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現時点の利用者には、お金の管理については無理があるので、家族との了解で、お金を所持している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家に電話ができるよう支援しています。遠方の方とテレビ通話をすることもあります。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快や刺激がなく清潔を保っています。季節の飾りつけや利用者様と一緒に手作りした飾りつけもあります。	リビングは食事やレクリエーションの場であるとともに、利用者の日中の居場所になっている。ハワイアン音楽のボランティアの発表会当日には隣接の小規模多機能型居宅介護事業所の利用者も集まり一緒に観賞した。リビングは明るく、車いすでも自由に通れるだけの広さになっている。季節毎のイベントの際は、時には利用者も一緒に飾りを作り、職員がリビングや廊下に飾り付けを行なっている。共用空間の清掃は、職員が時間を決めて行っている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ、廊下には椅子を置いて思い思いに過ごせる工夫をしています。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	部屋が狭いので限りはありますが、本人が居心地よくすごせるようにご家族と相談しながら決めています。	居室には照明器具、エアコン、ベッド、換気扇、ナースコール、防災カーテンを備え付けている。寝たきりで褥瘡の状態が良くない方のために、「体位変換用エアマット」を事業所で購入し、改善に向けて使用している。居室内はスッキリと片付いており、カレンダーや家族の写真・色紙を飾っている。中には位牌を奉っている方もいる。各居室の入り口には、秋の運動会の参加賞として配られたポーチをつるして、外出時の替え用リハビリパンツやおむつ入れとして活用している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーで手すりがあります。利用者様の自由な行動の妨げにならないよう整理整頓しています。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームしんすみれ荘

作成日 令和7年7月1日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域とのつきあいが不足している	地域の一員として日常的に交流する	自治会の行事に参加する	6か月
2	13	業務をこなすだけでなく向上心を持ってほしい	・積極的に研修を受講する ・常にケアについて話合することができる ・他者の意見を受容れ、お互いに成長する	研修受講の促し ケア方法の意見交換の機会を増やす	1年間
3					
4					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。